

## 政務活動費 調査研究(視察)報告書

視察内容:ナカバヤシ株式会社 兵庫工場「にんにく産地化プロジェクト」について

### 1. 視察目的・内容

ナカバヤシ株式会社 兵庫工場は、1973(昭和 48)年に写真アルバムなどの製本事業専門工場として設立されたが、年間の繁忙期と閑散期がはっきり分かれるため、閑散期における従業員の雇用保障が課題となっていた。

2014(平成 26)年に製本工場の繁忙期と養父市※1の気象条件がかみ合う「にんにく」栽培を中心とした6次産業化を進め、本格的な農業へ参入した。

(同年、養父市は国家戦略特区※2に指定されるも、同社は以前より本事業に着手)

栽培面積は借地約 10 ヘクタールで、多い年は年間約 90 トンの収穫、25 トンの保冷库 2 台で保管している。

主な販売先は JA で、スーパーやネットでも販売している。

尚、自然に育まれた養父の水資源を活用した完全人工光型(LED)の植物工場を整備し、リーフレタスやサンチュなど、水耕栽培野菜の生産も行っている。

※1養父(やぶ)市の人口:22,129 人(2020 年 12 月末)

HP:<https://www.city.yabu.hyogo.jp/index.html>

※2養父市 HP 国家戦略特区の指定

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/.../senryakutokku/index.html>



#### 【ナカバヤシ株式会社の概要】

- ・主要業: 図書館製本、古文書の修復、手帳やアルバムの製造など  
cf. 島根県松江市では木質バイオマス発電も行っている。
- ・本 社: 東京都と大阪府
- ・創 業: 1923(大正 12)年 4 月
- ・設 立: 1951(昭和 26)年 6 月
- ・資本金: 6,666 百万円
- ・売上高: 63,118 百万円(連結・2022 年 3 月末)
- ・従業員: 2,339 名(連結・2022 年 3 月末)
- ・上 場: 東京証券取引所 プライム市場
- ・銀 行: ◎りそな・三菱 UFJ・三井住友など
- ・H P: <https://www.nakabayashi.co.jp/>



## 2. 考察・検証・成果等

### 【星野和彦】

戦後の日本農業は、個人経営や農家主体の農業法人による経営が主流で、高齢化や輸入農作物が増え、先進国では稀にみる低い食料自給率だ。

(2021(令和3)年度の飼料自給率を反映しないカロリーベースの食料自給率は38%)

2009(平成21)年に農地法の改正で規制が緩和され、農業法人以外の企業も農地が借りられるようになった。

そして、2019(令和元)年12月末に農林水産省が発表したされた「リース法人の農業参入の動向」によると、2009(平成21)年から2019(令和元)年12月末までに農業へ参入した一般法人数は3,669法人で、改正前の427法人から約8.6倍に増えている。

そのうち株式会社として参入した企業数は2,326法人と全体の約63%を占めている。

参入企業を業種別で見ると、農業・畜産業が3割、サービス業が2割を占める一方、建設業も1割の355法人が農業参入をしている。

今回の視察で、ナカバヤシ株式会社は、企業が農業事業を行うことで、企業ならではの就労環境や福利厚生を提供できるなど農業に携わる人の雇用の安定や多様性を作ることができるという崇高な企業理念のもとに耕作放棄地の開墾から「にんにく」の生産事業を始めたこと確信した。

にんにく加工場や保管施設、マイナス2℃で貯蔵できる巨大冷蔵庫や乾燥装置、トラクター類などの設備投資も個人ではかなわない企業のスケールメリットだ。

しかし、大半の農業に参入した企業の悩みでもあるが、収益性の向上が課題だ。

今後、他の事例も研究して企業が何を欲しているかを十分把握して、宮津市に於ける「農業の企業誘致」が必要だと感じた。



ナカバヤシファームのにんにく畑



にんにく用の大型冷蔵庫

### 【久保 浩】

本業における繁忙期と閑散期の雇用の保障に苦労され労働量の平準化に取り組むきっかけとなったニンニク栽培であるが、地域の農地借り手がなかなか見つからないところを無償で借り受け、農地の有効活用にも一役買っている。

宮津市においても、少子高齢化で耕作者が減少を続け、不耕作地が増えるばかりで、民間企業による農業への参入が期待される。行政のみでの企業誘致もなかなか大変な時代となっており、我々議員も行政に協力しながら地元との間をよりいっそう繋げて行く必要を感じている。



### 【河原末彦】

なぜ、写真アルバムづくりの会社が農業に参画して「にんにく」づくりなのか。  
ナカバヤシ(株)は実は写真アルバムは主力ではなく、大学の研究成果などを製本し、大学の図書館に収める製本業が主力で、全国ではこうした製本業は「ナカバヤシ」だけである。と説明を受けました。

従って、大学の休み中が繁忙期とのこと。

一方「にんにく」栽培の繁忙期は9月～12月の土づくり・植付け時期と3月の収穫・乾燥期なので、製本業とにんにくづくりがうまくマッチングするため、農家と連携したにんにくの産地化を目指すとともに、地域農業の確立と日本に一つしかない製本工場を守り、雇用の維持を図ることが目的であったとのこと。

私は、以前「建設業と水稻栽培」を視察、水稻の繁忙期が建設業の閑散期、水稻の閑散期が建設業の繁忙期で、うまくマッチングできる業種であるとのことでした。

地域農業の担い手が少なくなっていく今日、こうした地域の企業が地域農業に参画してくるのも一つの姿であると改めて感じました。



夏梅にんにくセンター



にんにく用農機具

### 【安田裕美】

本業である製本の閑散期と農業の繁忙期が上手くかみ合うことから、ニンニク栽培に参入され、閑散期の人材を役立てる事で安定的な雇用確保が可能になったとのこと。  
事業が転機を迎えるきっかけとなったのは、品質と作業品質の向上を目的にJGAPを取得し、認証を基準に生産してくれる農家にグループ農家になってもらい、JGAPの基準でナカバヤシが指導し、出来た農作物を買い取るようになった。

自社の大型機械や乾燥機、冷蔵庫などの設備の共用を促し、農家の設備投資の負担も軽減している。

しかし、現在でも黒字化までは今一步の状況とのこと、現状、農業のみで生計を立てていくのは困難な場合が多く、自身の経験からも農業経営だけで成り立たせる事は決して容易ではないと感じている。

日本の農業が抱える課題は本当に深刻であり、人口減少と、高齢化により担い手は減少し、耕作放棄地が増え続けている。

抜本的な改革などが必要感じなのではないかと感じているが、目の前の課題に対して地域の人や自治体・国・消費者をも巻き込んだ取り組みが、日本の農業の根深い問題の解決に繋がっていくのではないかと感じている。

以上



## 政務活動費 調査研究(視察)報告書

視察内容:与布土地域自治協議会(兵庫県朝来市)「地域の将来課題と農村集落自立への取り組み」について

### 1. 視察目的・内容

朝来市には本協議会の他に10の自治協議会があり、1つの規模が小学校区域単位となっている。

協議会に包括的な交付金を支出する形態で、これまで自治体が実施してきた行政サービスができるだけ地元協議会へ移行し、自ら担ってもらおうとするもので2000(平成12)年の地方分権一括法が施行され、その一環で全国的に地元自治会組織への行政サービス移行が試みられている。

#### 【与布土地域自治協議会の概要】

- ・所在地:兵庫県朝来市※
- ・集落数:10区
- ・世帯数:530世帯
- ・人口:1,201人
- ・面積:21.39 km<sup>2</sup>(農村地域:約2.2 km<sup>2</sup>)
- ・高齢化:40.88%
- ・HP:<https://yofudo-jichikyuu.com/>
- ・略歴:2005(平成17)年に朝来郡生野町・和田山町・山東町・朝来町が合併して「朝来市」発足。2007(平成19)年に廃校となった与布土小学校の校区で与布土地域自治協議会を設立し、同市の「包括交付金制度」を活用、独自の地域再興を展開中。2021年に過疎地域持続的発展優良事例表彰で総務大臣賞を受賞。

※人口:28,776人(2022年10月末)

HP:<https://www.city.asago.hyogo.jp/>





## 2. 考察・検証・成果等

### 【星野和彦】

与布土地域自治協議会を視察するきっかけは、上宮津地区自治会の皆さんからご紹介頂いたことです。

現地でのヒアリングに加え、帰宅してから同協議会の資料を読み返すと、上宮津 21 夢会議などの取り組みとコンセプトが改めて理解できた。

難易度は高いと思料されるも、与布土地域自治協議会に於ける地域商社の活動にも注視したいと思った。

宮津市でも「包括交付金制度」を採用する施策など地域再生の方向を一つずつ探っていきたい。



廃校を活用した朝来市健康福祉大学等の施設と与布土地域自治協議会の玄関

### 【久保 浩】

宮津市においても、H19 年頃から似たような発想で「地域会議」が旧村単位で設立された。当初、市から設立の目的として説明されたのは、「年間膨大な量の要望が市に出されるが、厳しい財政、職員削減で対応が困難になりつつあり、例えば里道補修の原材料は市から提供するのでできるだけ地元で対応してほしい」等のように行政サービスの一部を地元で担う手法に移行しようとする点が共通する。

今回の視察先の協議会と比較すると宮津市の各地域会議には活動支援として、主にソフト面への使途として年間 10 万円の交付金が申請により支援される。

一方、朝来市では、事務局運営費 1 協議会平均、約 200 万円をはじめ、ゴミステーションの整備や水路などの清掃他に充てる経費などのソフト面、ハード面併せた包括的交付金が 1 協議会に年間平均約 200 万円以上支出されている。

宮津市の場合、ゴミステーション補修、里道補修など各支援制度があるにはあるが、所管課も内容により違うため、地元としては、朝来市のような包括的交付金を利用しやすいと感じる。また、朝来市では、視察先の与布土地域自治協議会のように、市が行うべき行政サービスの多くを財政支援する代わりに地元民自ら担っている訳であるが、行政の負担すべき点を地域住民にシフトさせているとも言え、住民にとってはやり甲斐と共に責任もかかってくるので、ときの役員にとっては、ある意味大変である。

しかし、与布土地域自治協議会の皆さんは、積極的であると感じ、宮津市の地域コミュニティーのあり方にとって大変参考になる事例であると感じた。



## 【河原末彦】

人口減少と少子高齢化の進展、農業従事者の高齢化と後継者不足、そして不耕作地の増加、また、地域コミュニティの不足、地場産業の衰退など全国の過疎地域では、どこも同じような課題を抱えている。

こうした課題を住民みんなの知恵と行動で乗り切ろうと活動しているのが「与布土地域協議会」であった。

なぜ、できているのかを考察すると、まず、ニーズ調査がしっかり行われ、将来展望や夢を語り合い、その思いを「与布土地域づくり計画」に生かし、6つの事業部会(①自然・環境、②温泉周辺整備、③農業振興、④子育て・伝統文化、⑤福祉・安心安全、⑥住民交流・情報)が部会員と共に実行部隊となっていた。

つまり、地域協議会や自治会組織(自治会・区)としての縦軸と、課題ごとの(部会)横軸がそれぞれの役割を果たしていけば、地域の活性化にもつながっていくのではないかと感じた。

宮津市の場合、この横軸の組織の育成が望まれる。そして何よりしっかりとした事務局体制(人財)が存在していると感じた。(ちなみに、与布土地域協議会の事務局長は、市の退職者)



与布土地域自治協議会の遊休農地の活用「青パパイヤの栽培」

## 【安田裕美】

地域課題が深刻になり、住民座談会を開催し何度も議論を重ね、どうすれば自分達の地域が存続できるのか、地域の事について共通の認識が深まっていき、その結果、市民が主役になれる新たな地域自治組織を作り、市民と行政の協働のまちづくりを目指して地域自治協議会が発足されたとの事。

宮津市においても、地域会議が設置されているが、高齢化や人口減少で地域が抱える問題が深刻化している中、自治会が存続できないなどの声も出始めており、与布土のような地域自治協議会の仕組みが必要ではないかと考えられる。

協議会の方は、従来の公民館活動ではないという事と、最初に何度も議論を重ね話し合いから入った事が重要だったと話されている。

他所の事例を参考にすると、形から入ってしまうと本来の意味や目的がおざなりになる事があり、気をつけたい点ではないかと感じた。

近年地域の状況は大きく変化しており、集落の消滅や極度な高齢化、鳥獣被害、突然の災害などコミュニティの空洞化に繋がる課題が急浮上してきている。

今後は様々な分野でコミュニティをベースにし、緊急に課題解決が迫られると考えられる。

まずは住民が地域のことを考え、本当に何が必要で、どうしたいのか、どうしていくべきなのか、しっかりと議論を重ねることから始めていく事が重要であると感じた。

以上





(様式1)

令和5年3月31日

宮津市議会議長 徳本良孝 殿

会派名 無所属クラブ

代表者名 星野和彦 (E)

### 政務活動費 調査研究(視察)報告書

- 1 視察年月日 令和5年2月1日(水)～2(木)
- 2 視察先・項目
  - ① (NPO法人Carbio(カンビオ) (兵庫県多可郡多可町)  
鳥獣処理施設(24時間持ち込み可能な「鹿ポスト」～ジビエで  
ペットフード～)について
  - ②兵庫県西脇市役所  
いちご栽培のビニールハウス「スイーツファクトリー支援事業」  
について
  - ③株式会社日向屋(和歌山県田辺市上芳養)  
「若手企業による鳥獣対策の6次産業化」について
  - ④有田川町ゴールデンリバー(和歌山県有田郡有田川町長田)  
「廃園保育所リノベーション利活用事業」について
  - ⑤有田川町地域交流センターALEC(和歌山県有田郡有田川町下津野)  
「絵本によるまちづくり」絵本によるまちづくりについて
- 3 参加者氏名 星野和彦・久保浩・河原末彦・安田裕美 以上4名
- 4 経費 75,313円(18,828円/1人あたり)
- 5 添付資料 視察研修行程表・資料(別添のとおり)

以上

# 無所属クラブ 行政視察日程表

令和 5. 2. 1(水)～2(木)

日 程	行 程	
2/1(水)	<p>自家用車(宮津 IC～春日 IC～氷上 IC) (京都縦貫道・舞鶴若狭道・春日和田山道路)</p> <p>宮津市役所 ===== 視察先① 7:00 発 (110km) 10:00/12:00</p>	<p><b>視察先① NPO 法人 Cambio(カンビオ)・鳥獣処理施設</b> 「24 時間持ち込み可能な「鹿ポスト」～ジビエでペットフード～」 10:00～12:00・兵庫県多可郡多可町加美区豊部 483(加美給食センター跡)</p> <p>〔連絡先〕 NPO 法人 Cambio 後藤高広さん 〒679-1124 兵庫県多可郡多可町中区森本 809-15 TEL:0795-20-7325・090-2592-2964</p>
	<p>自家用車 ※途中ランチ 自家用車 ===== 視察先②-1 ===== 視察先②-2 (19km) 14:00/15:00 (約 9km) 15:15/16:00</p> <p>自家用車(滝野社 IC～南紀白浜 IC) (中国・近畿・阪和自動車道) ===== 宿泊先 (250km) 19:30 着</p>	<p><b>視察先② 兵庫県西脇市役所・いちご栽培のビニールハウス</b> 「スイーツファクトリー支援事業」 14:00～16:00・兵庫県西脇市下戸田 128-1・落方町 390</p> <p>〔連絡先〕 西脇市 ・産業活力再生部 農林振興課 村井課長・岩根さん TEL:0795-27-8404 ・議会事務局 TEL:0795-22-3111(代表)</p> <p>(宿泊先) 和歌山県西牟婁郡白浜町 1379 ホテルSHIRAHAMAKAN 白浜館 TEL0739-43-5151</p>
2/2(木)	<p>自家用車(みなべ IC～有田南 IC) 自家用車 (阪和自動車道) ※ランチ 宿泊先 ===== 視察先③ ===== 視察先④ 9:00 発 (24km) 10:00/11:30 (52km) 12:30/15:00</p>	<p><b>視察先③ 株式会社日向屋</b> 「若手企業による鳥獣対策の6次産業化」 10:00～11:00・和歌山県田辺市上芳養 755-2</p> <p>〔連絡先〕 岡本さん・田中さん TEL:080-3806-2716</p>
	<p>自家用車(有田 IC～宮津 IC) (阪和・近畿・第二京阪・京滋・京都縦貫道) ===== 視察先⑤ ===== 宮津市役所 (1km) 15:30/17:00 (231km) 21:00 着</p>	<p><b>視察先④ 和歌山県有田川町ゴールデンリバー</b> 「廃園保育所リノベーション利活用事業」 13:30～15:00・和歌山県有田郡有田川町長田 546-3</p> <p>〔連絡先〕 有田川町 企画調整課 山崎一宏さん TEL:0737-52-2111</p> <p><b>視察先⑤ 和歌山県有田川町 地域交流センターALEC</b> 「絵本によるまちづくり」 15:30～17:00・和歌山県有田郡有田川町下津野 704</p> <p>〔連絡先〕 川村竜央さん TEL:0737-52-4730</p>